会議報告

第16回 アジア獣医師会連合（FAVA）大会・代表者会議（セブ）

山根義久†（日本獣医師会 会長）

平成23年2月16～18日，フィリピン・セブ島において，第16回アジア獣医師会連合（FAVA）大会が開催された．大会前日の2月15日には，FAVA代表者会議が開催され，FAVAの運営について協議された．

今回のFAVA大会は，フィリピン獣医師会の年次大会にジョイントする形で，セブ市の中心街にほど近い「セブシティ・ウォーターフロントホテル＆カジノ」で開催された．会場は，カジノが併設され，コンベンション施設としても用いることができる大型のホテルで，日本人，中国人，韓国人等の観光客も多数宿泊していた．

代表者会議は，15日午前10時，同ホテルの会議室「エーゲ」において，FAVAメンバー国の代表者（18カ国中12カ国が出席）に加えて，世界獣医学協会会長ジョルナ氏（オランダ）も臨席して開会された．

会議は，FAVA会長チェン氏（フィリピン）のセブへの歓迎の挨拶で始まった．

続いて，ジョルナ氏が世界獣医学協会の現状に加え，本年が獣医学教育が開始されてから250周年に当たることから企画されたVet2011（世界獣医年）についての説明を交えた挨拶が行われた．

その後，前回代表者会議議事録の確認に続いて，各国からの報告が行われた．本会議においては，各国の獣医学教育事情についての説明が求められ，日本獣医師会からは，それに加えて，動物感謝デーin Japan“World Veterinary Day”について，これまでの開催状況を紹介するとともに，平成23年においては，Vet2011の趣旨を踏まえた企画を盛り込んで開催する予定であること等について報告を行った．

午後には，経理担当のウー氏（韓国）から，収支及び会費の納入状況について報告され，会費未納の会員国へ納入を呼びかけることとされた．本件については，日本獣医師会から事務局に対して，毎年，定期的に会費の請求書を会員国へ送付するよう要請した．

その後，FAVA Strategy plan 2010-2015（2010-2015のFAVA活動指針）について協議がなされた．協議においては，特に獣医学教育において各国が連携を図るべきであるとされ，かつて日本獣医師会が実施した獣医師国際研修事業（平成5～14年度の10年間にわたり，アジア各国から144名の研修生を1年間受け入れて，全国5大学で実施した事業）に対して改めて賞賛の意見が多くの国から述べられた．

その後，今後のFAVA大会・代表者会議の開催地について協議された．協議においては，2012年の代表者会議を日本で開催することが提案され，日本獣医師会としては，持ち帰って検討する旨返答した．

また，次回のFAVA大会は2013年台北（台湾）で開催されることが承認されており，ホスト国である台湾からは，台北市の観光プロモーションビデオが紹介され，各国から多数の獣医師の参加を要請された．

会議終了後に開催されたレセプションにおいては，セブ市長ラマ氏が出席したが，市長は数曲の歌を披露されるほどのサービスぶりであり，和やかな雰囲気の中で，各国の代表が親睦を深めていた．

翌16日から18日には，フィリピン獣医師会年次大会にあわせて，FAVA大会が開催された．我が国からも8人の獣医師が口頭，ポスター等の発表を行った．

16日午前8時30分に，テープカットが行われ，各国代表が賑々しく入場して開催された開会式は，フィリピン国軍兵士による国旗掲揚，国歌斉唱で始まり，世界的なテーマであるOne Health等についての基調講演が行われた．

また，同日夕に開催されたガラディナー（大会参加者レセプション）には各国から多数の参加者があり，地元女性歌手の歌や子供たちの社交ダンス，セブ島の民族舞踊等，華やかなプログラムが用意された楽しいものになった．

今回の大会において再認識されたのは，アジア各国の日本の獣医界に対する評価の高さと，期待の大きさであ

† 連絡責任者：山根義久（日本獣医師会）
〒107-0062 港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階 ☎03-3475-1601 FAX 03-3475-1604
E-mail : info@nichiju.lin.gr.jp

図1　著者とフィリピン獣医師会パタクシル会長（元獣医師国際研修事業研修生）

る．特に，本会が実施した獣医師国際研修事業（各国には，TP-FAV : Training Program for Asian Veterinarianの略称で呼ばれている．）は，プログラムが終了して10年が過ぎようとしている現在においても，高く評価されている．

その理由は，当時の研修生が母国に帰国後それぞれの分野で活躍し，現在高い地位を占めているからに他ならない．たとえば，今大会の開催国フィリピンの獣医師会長パタクシル氏は平成8年度の本プログラムにおける麻布大学の研修生である．同氏は代表者会議において「日本獣医師会の研修プログラムに参加したとき，私は一介の獣医師（“only a small veterinarian”）であった．日本での研修がきっかけとなり，その後のステップを刻むことができた．」と発言し，各国代表の前で本研修への謝意を述べていた（図1）．

図2　ガラディナーで今大会における功績を讃えられるFAVAチェン会長（中央，故人）

モンゴル獣医師会の現会長は，「前会長は日本獣医師会の研修プログラムの修了者であり，永きにわたり獣医師会会長を務めてモンゴルの獣医界に多大な貢献をしたほか，他の修了者からも2人の県知事を輩出する等，指導的立場にある方が多数いる．」と述べていた．

ガラディナーでは，ベトナム・ハノイ大学の獣医学部長が，「私もTP-FAVの修了者です．」と親しげに声をかけてきた．

日本獣医師会がこれまでにまいた種は，アジア各地で確実に成長し，花開いており，今後の国際関係の発展を図る上で，このネットワークを大切にしなければならないと改めて感じた大会でもあった．

帰国後10日して，フィリピンからとても悲しい便りが届いた．「FAVA会長のチェン氏が逝去された．」との一報である．セブでお会いしたときには体調が悪いとのことで痩せてはおられたが，気概に満ちているように見受けられた．今思えば，「なんとしてもこの大会を成功させてみせる．」という一念が，彼の命を保たせていたのかもしれない．心から，ご冥福をお祈りする．（図2）